

平成 29 年度学校関係者評価報告書

上宮中学校・高等学校
学校関係者評価委員会

(1) 平成 29 年度 各部署の重点目標と評価項目について

上宮中学校・高等学校では、「歴史ある建学の精神と教育目標は不易」であるが、「時代の変化にも適応しなければならぬ」という話のもと、各教科・各学年・各分掌で、年度当初に「目標」を設定し、目標達成の為に「重点課題」を設定している。年度末には、それぞれの「重点課題」について、A～D の評価を行い、「成果と課題」を表すことにしている。これをまとめたものが「学校評価の冊子」である。この冊子を見ることによって、各教科・各学年・各分掌の取り組みとその評価・成果・課題を一覧することができる。平成 29 年度の評価を見ると前年に引き続き C の評価も散見されるので、引き続き一層の取り組みや努力が必要であるとの説明があった。

以前より、目標や重点課題として、もっと具体的な国公立大学〇名合格、関関同立〇名合格や、模試においては、数値目標を定める必要があるのではないかという意見を反映しなかったが、今年度も反映できなかったため、平成 30 年度への課題とする。また、C・D 評価がつけられた項目に関してはより専門的な人材を投入する事で、改善を行うよう課題とする。

(2) 平成 29 年度 教員個人の自己評価について

各教科・各学年・各分掌で設定した「目標」および「重点課題」に従い、各教員が個人目標シートを作成している。個人目標シートでは、学年・教科・分掌での「本年度の取り組み課題」を設定し、「課題解決の手立て（方法）」を策定し、年度中期と年度末において、その遂行度と達成度をそれぞれ A～D の評価で自己評価を行っていることの説明があった。

個々の教員が、それぞれ課題を設定し、その課題に取り組んでいくことは、教員の資質の向上にもつながるので非常によいことである。更に続けていって欲しい。

(3) 平成 29 年度 授業アンケートについて

平成 22 年度から 1 学期末(7 月)と 2 学期末(12 月)に生徒に対して授業アンケートを実施しており、今年度で 8 年目となった。一昨年からは年 1 回、2 学期末(12 月)のみの授業アンケートの実施に変更となった。アンケート結果は集計され、各教員個々に返却されている。各教員は、そのアンケート結果をもとに、更なる授業の改善につなげている旨の説明があった。

アンケート結果をもとに、各教員が個人的に授業の改善に結び付けるだけでなく、授業見学や研究授業を通じて、もっと積極的に授業の改善に取り組んでいくべきである。教えるだけでなく、生徒たちが自分で考える力を養う授業方法も重要である。

(4) 平成 29 年度 生徒・保護者・教員アンケートについて

平成 22 年度から同じアンケート項目で、生徒・保護者・教員に対してアンケートを行った旨の説明があった。

保護者のアンケート結果では、毎年「学校生活」・「担任相談対応」・「担任指導」・「よい友人関係」などの項目が比較的評価が高いことは評価できる。ところが、学習面の「学習習慣」・「授業工夫」・「学習意欲」・「授業の進み方」などの項目の評価が毎年、低いことが非常に問題である。また、生徒のアンケート結果でも、同様に学習面の評価が低いので改善の必要がある。

平成 26 年度 2 学期から希望生徒に対して放課後に開講した大学合格講座が好評であった。また、平成 27 年度は更に充実した内容で大学合格講座を通年で開講し、多くの受講生を集めていたが、生徒・保護者に対してのアンケート結果では昨年度に比べて大きな変化はなかったが、平成 28 年度においては、改善がみられ、今年度においても評価があがっている。